

キャンパス共通対象プログラム

プログラム	ムービー作成による情報活用力のスキルアップ		
目的	1. 教育現場、社会生活で活躍するムービー作成のスキルを取得する 2. ムービーの作成過程を通して、パソコンの基礎知識を復習する		
内容	静止画像、動画、音楽のパソコンを使っての編集方法を学ぶ 様々なメディアを使ったムービーの作成方法を学ぶ		
担当者	松山 恵美子	実施回数	前期4回・後期4回
実施曜日		実施時限	
実施場所		受講対象	2年次生以上
申込先	松山先生まで	締め切り	
備考			

プログラム	ベーシックアウトドア講座		
目的	<p>キャンプのとても基本的な技術を学び、アウトドア活動の愉快さを体感。キャンプ またアウトドア活動は教育手段や療育の一部として、学校や各種施設において積極的に実施される。教員・施設勤務を目指す者にとってここで学ぶことは将来に有益な体験となる。</p> <p>またこの体験は非常時にまさに役立ち、自らの命だけでなく誰かの命をしっかりと支えることにつながる。3泊4日の体験を通し、仲間としっかり支え合うことや自然の中で快適に暮らす有意義な経験を目指したい。</p> <p>自分のための技術だけでなく、誰かに指導する際の留意点も学ぶ。</p>		
内容	<p>1日目：野外遊び・テントを立てよう・スカットと薪割り・焚き火を作ろう・野外料理基本</p> <p>2日目：どっぷり川遊び・ピクニックランチ・焚き火メシ・肝トレ(希望者のみ)・野宿体験</p> <p>3日目：サンライズウォークから川遊び再び・野外料理バトル・キャンプファイアー</p> <p>4日目：手作りクラフトワークショップ・撤収</p>		
担当者	伊藤光太郎・ほか外部講師	実施回数	
実施曜日	8月30日～9月2日	実施時限	
実施場所	ヒゲッチキャンプ場 (埼玉県児玉郡神川町)	受講対象	全学年
申込先	池畑先生まで	締め切り	8月16日
備考	希望者は「キャンプインストラクター資格」取得可能		

プログラム	障がい者キャンプ支援体験		
目的	障がいのある方々と自然環境の中で野外活動を共に体験することで、対象者の理解と福祉的、教育的支援の技術を学ぶことを目的とする。「福祉とは」「障がいとは」を、自分なりのことばで定義づけができることを目指し、体験を通してその基礎を学ぶ。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習:7月に学内で2回グループワーク等を行う ・本実習:8月12日(日)～13日(月) <li style="padding-left: 20px;">場所:みずがき山リーゼンヒュッテ(山梨県北杜市) ・事後学習:10月に学内で1回行う予定である。 <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある方1名とパートナーを組み野外活動に参加します。 多くのパートナーはこれまでも参加経験があり、毎年楽しみにされています。 ・カレー作りや川遊び、クラフトワーク、レクリエーション、キャンプファイヤーなどのプログラムが準備されています。 ・宿泊はキャンプ場内のコテージを利用します。テント泊ではありません。就寝時のパートナーのケアは、スタッフが行います。 ・当日は、淑徳大学の卒業生がボランティアスタッフとして多数かかわっていますので、野外活動や障がいのある方とのかかわりが初めての方も全く心配いりません。 		
担当者	仁田坂 洋子	実施回数	
実施曜日	8月12日～13日	実施時限	
実施場所	みずがき山リーゼンヒュッテ (山梨県北杜市)	受講対象	総合福祉学部の学生
申込先	下記に表示	締め切り	5月末日
備考	定員超過の場合は、正課科目「ユニバーサルキャンプの方法」履修者優先。昨年までの様子はDVDで視聴できます。☆問い合わせは池畑まで。		

キャンパス共通対象プログラム

プログラム	現代人の生活倫理スタディーツアー in 福島		
目的	震災被害や原発事故に見舞われながらも今を生きる人々の姿や古人の教えから、人間の関わりや人間がもつ「よさ」について具体的・体験的に学び、これからの私たちのあり方・生き方について考えを深める。		
内容	「現代人の生活倫理」とタイアップし、現代を生きる私たちのあり方・生き方についてさらに考察を深めるため、福島県内における 2泊3日のスタディーツアーを行う。		
担当者	小林 秀樹、魚谷 雅広	実施回数	
実施曜日		実施時限	
実施場所		受講対象	全学年
申込先	小林先生まで	締め切り	
備考	対象学生は、特に問わないが「現代人の生活倫理」を履修者していることが望ましい。		

プログラム	電子黒板を使ってみよう		
目的	電子黒板を利用する体験学習		
内容	電子黒板を使って授業をしている教員による模擬授業の体験から学ぶ ① 電子黒板の基本操作の習得 ② 電子黒板の効果的な使い方を考え・学ぶ ③ 電子黒板を使った教材を作成する		
担当者	松山 恵美子・松浦 俊弥	実施回数	前期後期1回
実施曜日	2018年7月28日(土)	実施時限	13時～16時
実施場所	12-301教室	受講対象	全学年
申込先	 QRコードからWeb申請	締め切り	7月13日(金)
備考		参考資料	

キャンパス共通対象プログラム

プログラム	感覚統合療法を用いた子ども療育体験		
目的	<p>感覚統合療法とは、発達障害児のリハビリテーションや療育実践で用いられる支援技法の一つである。子どもが遊びを通して得られるさまざまな身体感覚、運動感覚に着目し、それらを意図的に療育活動の中に組み込むことで、身体の使い方や人とのかかわり方を育てることをねらいとする。</p> <p>本プログラムでは、幼児の療育実践に体験的に参加し、感覚統合療法の基本内容を学ぶことを目的とする。子どもの発達や学習の基礎を支える諸感覚の重要性を学ぶことは、特別支援教育はもとより学校教育、幼児教育すべての現場で活用できる専門性の一つになるといえる。</p>		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・3日間の連続参加プログラムとする ・事前配布資料を通して、感覚統合療法の基本的内容を学ぶ ・療育機関を訪問し、スタッフの指導のもと行動観察の視点を学ぶ ・2日目、3日目は実際に支援を受けている子ども達と運動活動や音楽活動に参加する。体験後のカンファレスを通して子どもたちの感覚の使われ方や活動のねらいを学ぶ。 		
担当者	外部講師	実施回数	
実施曜日		実施時限	
実施場所	社会福祉法人心結会まんまる (千葉県山武郡横芝光町)	受講対象	全学年
申込先	池畑先生まで	締め切り	
備考			